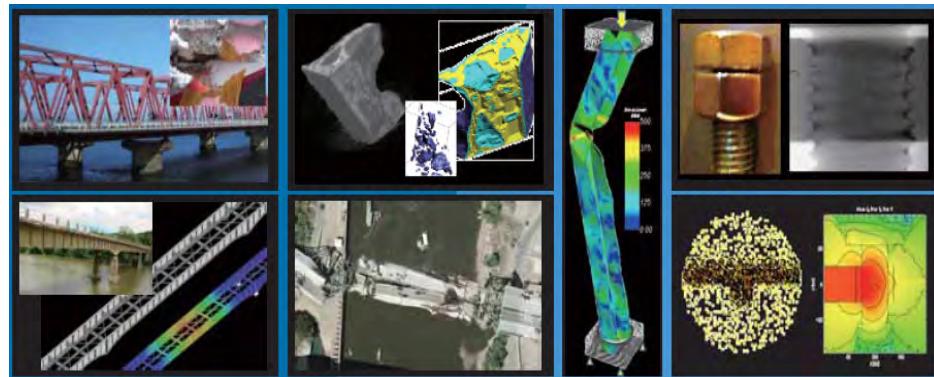


卓上型放射光を用いた
橋梁非破壊検査の実施報告
山田 廣成

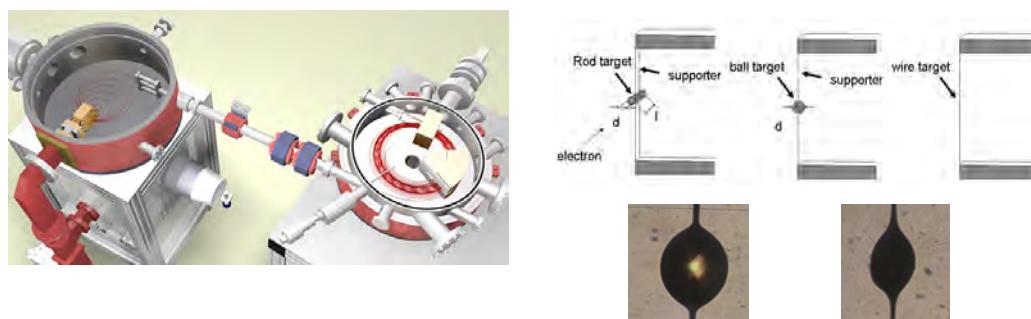
立命館大学 理工学部 電子光情報工学科
hironari@se.ritsumei.ac.jp

卓上型放射光を用いた橋梁 非破壊検査の実施報告

山田廣成
立命館大学 理工学部 & (株)光子発生技術研究所

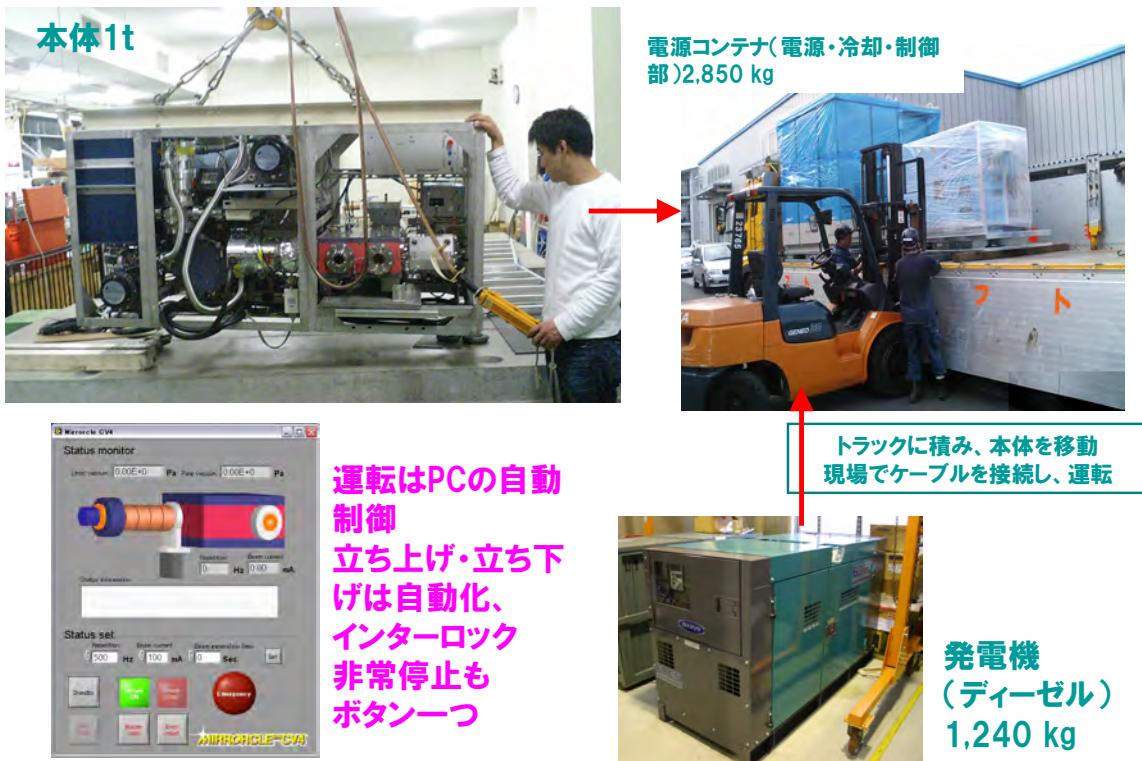


みらくる型卓上型放射光の原理

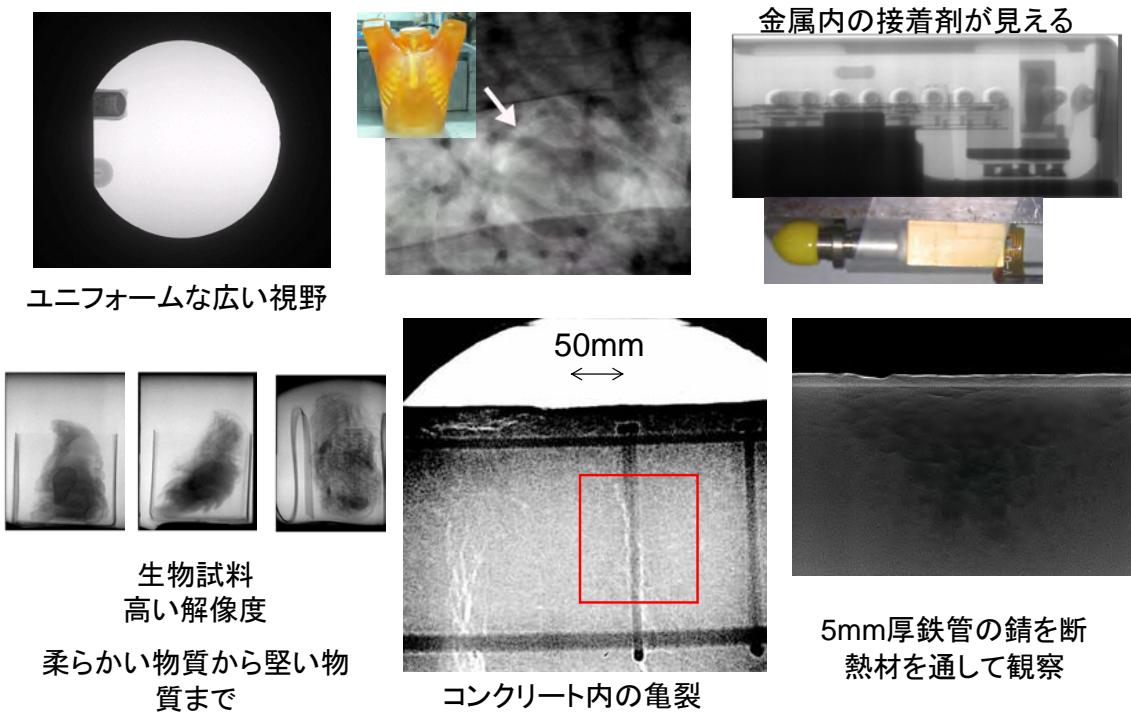


- 焦点サイズはターゲットサイズで決まる
- X線転換効率が高い
- ミクロンオーダー解像度
- 高エネルギー電子はターゲットでストップしない。ターゲットの発熱が少ない
- 最大電子エネルギーまでのX線を発生
- 放射角は $2/\gamma$ (1MeVでは π rad、4MeVでは $\pi/4$ rad)

移動可能なまでに小型化された“みらくる”

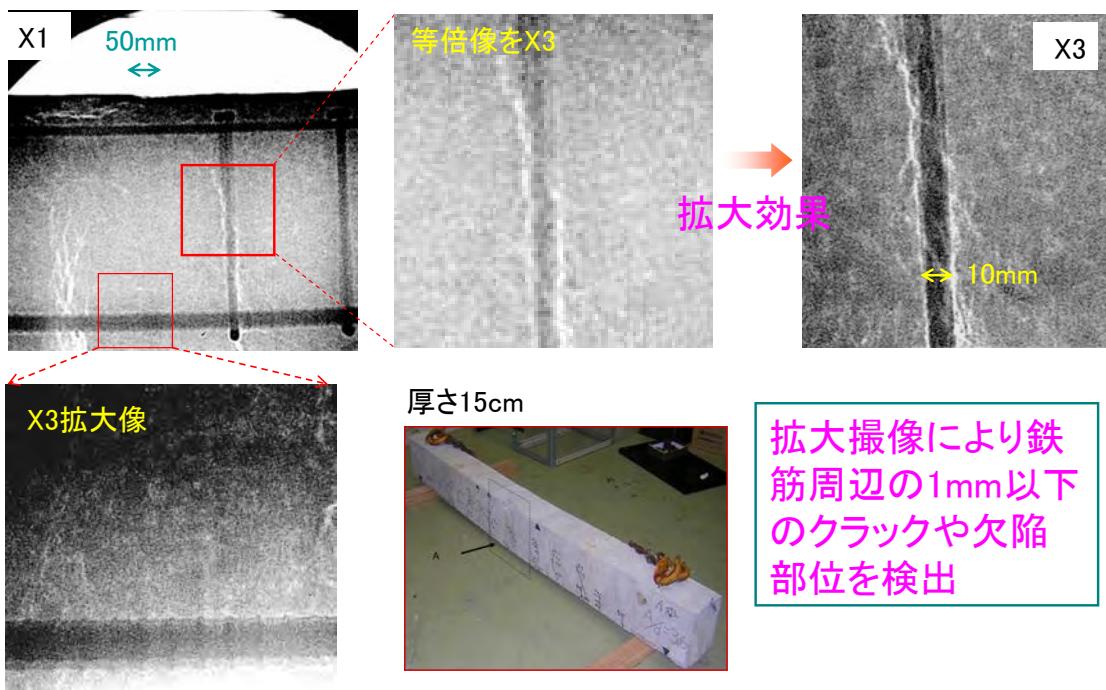


“みらくる”で撮像した様々な写真

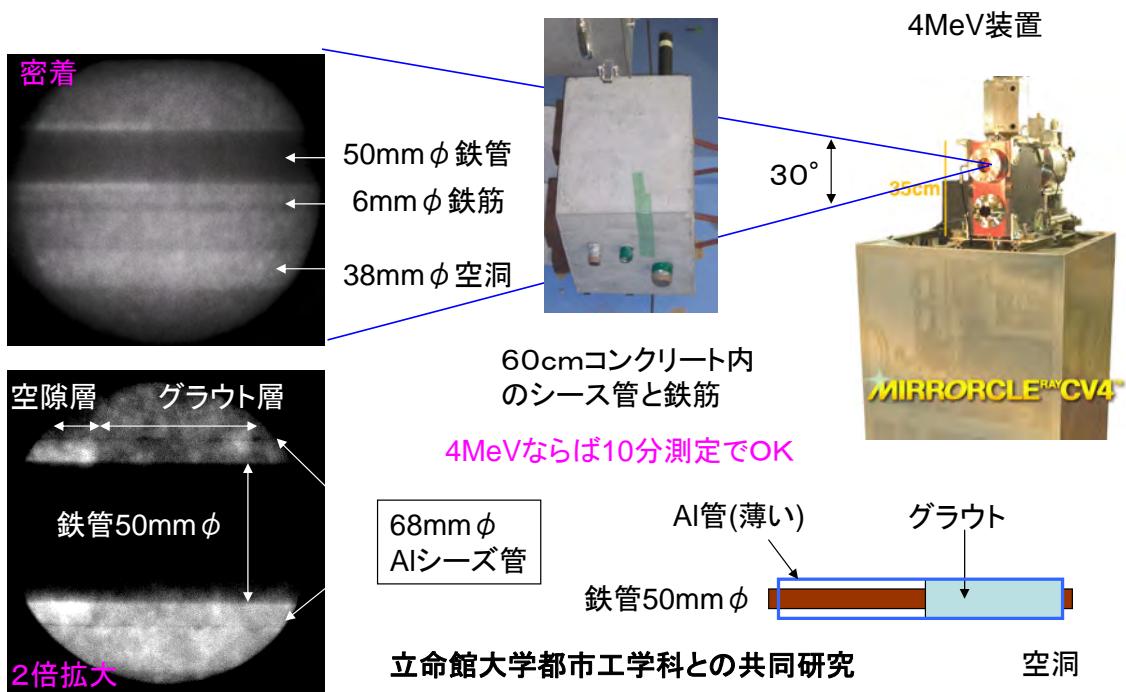


みらくる6X コンクリート構造物X線イメージ

鉄筋コンクリート橋梁内のひび割れが見える！



“みらくる”で橋梁はどこまで見えるか 室内ベンチテスト

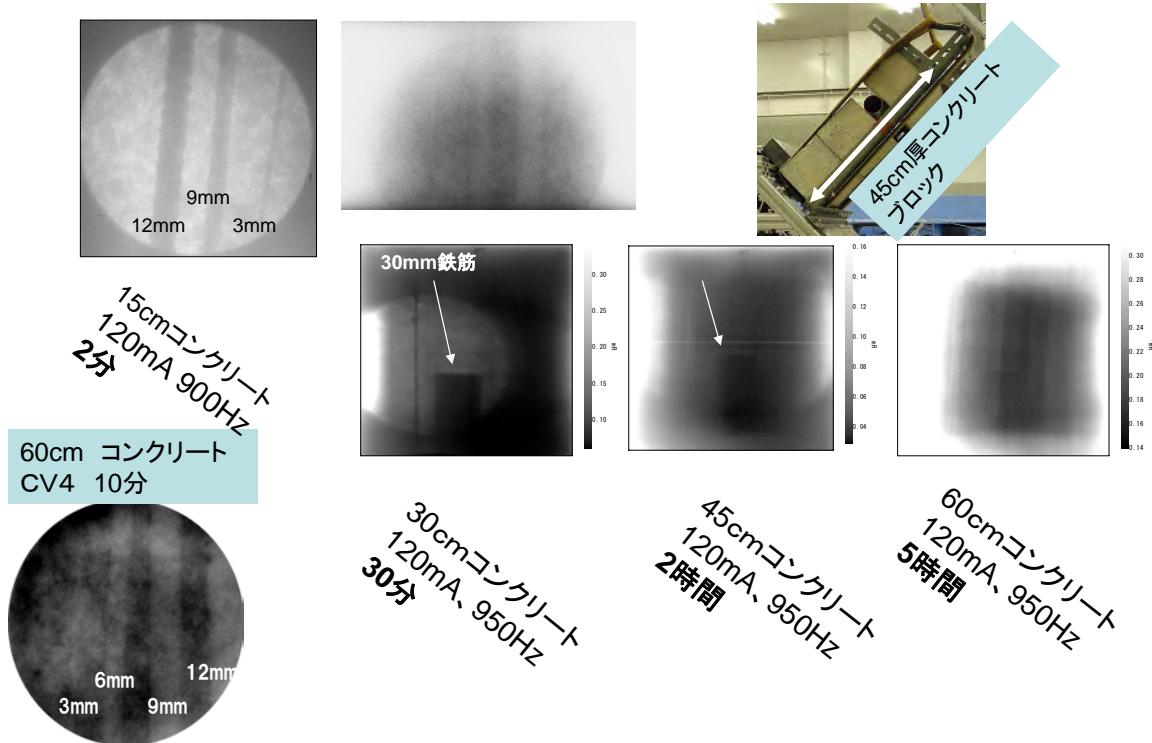


必要なX線エネルギー

コンクリート透過率／線吸収係数による計算 $I/I_0 [\%]$

X線エネルギー	コンクリート厚 100 cm	コンクリート厚 60 cm	コンクリート厚 30 cm
6.0 MeV	0.2 %	2.4 %	15.6 %
4.0 MeV	0.06 %	1.2 %	10.9 %
3.0 MeV	0.02 %	0.6 %	7.8 %
2.0 MeV	0.003 %	0.2 %	4.3 %
1.3 MeV	2E-04 %	0.03 %	1.8 %
1.0 MeV	3E-05 %	0.01 %	1.1 %
0.8 MeV	1E-05 %	0.004 %	0.6 %
0.5 MeV	1E-07 %	4E-04 %	0.2 %

1 MeV装置で何処まで見られるか？

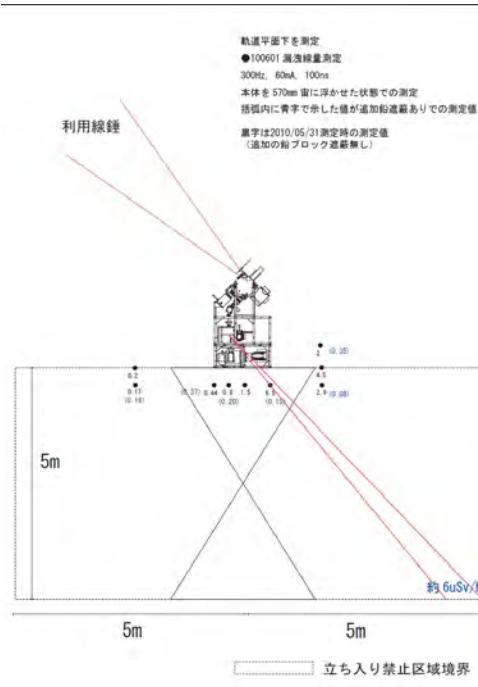


1MeV卓上型放射光による橋梁検査の実際

当日発表

法律と放射線安全上の問題

- 1MeV装置の場合、取り扱いはX線管と同じであり、戸外への持ち出しが自由。
- しかしながら放射線障害防止法に則って準備
- 管理区域境界で1ヶ月100uSvであるから、6uSv/hは十分に低い。



橋梁検査実施上の問題点

- 必要なX線エネルギー
60cmコンクリートの撮影は、4MeV“みらくる”で十分である。
100cmは6MeVが適當
- 加速器の安定性
戸外での安定したオペレーション
湿度による高圧電源の放電
振動による故障(フィラメント、真空装置、冷却水)
- 加速器の安全性
高圧電源(ライナックの場合には、カソードを高圧に浮かせて使用するので危険が伴う)
マイクロトロンのカソードはグランドであり危険は無い
湿気の対策が必要
- 放射線の安全性
半径10m以内を立ち入り禁止にする
周囲の放射線をモニターする
- 法律上の問題
4MeV以下のライナックのみが許可されているが、マイクロトロンはどうか？(マイクロトンやベータロンの方が安全)
- 交通の規制
NEXCOとの話し合いに依れば、通行を前面閉鎖することには大きな抵抗がある。
- 橋梁が振動する問題(最大ふれ幅1mm)
測定を短時間で行う
振動と同期をとってパルス運転を行って計測する。

卓上放射光装置を用いた橋梁検査の今後の課題

- 4MeV橋梁検査専用機の開発(2年前にJSTに補助金の申請をしたが採択されなかった)
- さらなる軽量化
- マイクロトロン移動使用の許可を取る(4MeVの移動使用は認められているが、マイクロトロンはどうか？)

